

茨城県 大津漁協 石川信漁連大津支店長

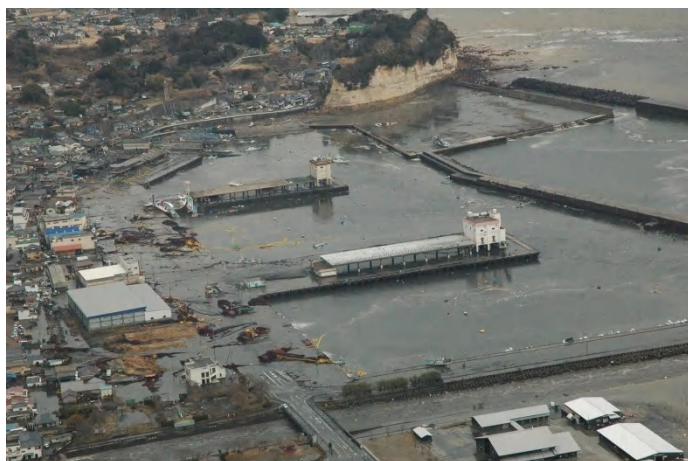
茨城大津漁協の石川です。今回の震災では義援金・支援物資等を皆様からいただきまして、この場をお借りしまして御礼申し上げます。ありがとうございます。

3月11日14時46分、地震が発生した瞬間に書類が事務所の中を飛び回るような状態で、それを抑えつけるのに精いっぱいでした。そして2回目の地震が間髪いれず訪れました。その瞬間、事務所の前の埋立部分から黒い砂が現れ、液状化のような状態となりました。

市場では丁度セリが始まる時間でした。最初の地震で、「津波が来るぞ」ということで、魚を樽に入れて、市場から100メートルほど離れた製造工場へ運びこんでから急いで逃げるといったような状況でした。

当時、私は第二波の地震が治まるのを待って、若い職員と二人でスピーカー付の軽トラックで、「すぐ沖に船を出してください。」と緊急通告を行っていました。一番最後にすれ違った船主さんは、津波に巻き込まれそうなところで、どうにか沖に船が出せたという状況でした。

そのまま軽トラックで走っていると、若い職員が「助けてくれ」という声を聞いたようで、「石川さん誰かいる。」と言いました。私はスピーカーで叫びながら避難を呼び掛けていたので聞こえなかったのですが、「誰かいますよ。」と、もう一度言うので辺りを探してみると、おばあさんが壊れた家の中に取り残されていました。「玄関壊しますよ。悪いですけど、助けるのに玄関壊しますよ。」と言って、2人で玄関を壊して助けることができました。



その後、大津港が一望できる高台に行きました。15時30分か40分に津波の第一波がきました。それが約3メートルですね。うちの事務所がぐうっと持ち上がるような波で、それが暫くすると、ざあっと引いていきました。すごい津波だなと、そう感じたのですけれども、その時同じ高台にいた人が沖を指差しました。

「何だ?」と思って、沖を見てみると、水平線が真白になっていました。それが第二波の大津波でした。壁のような、映画のような津波でした。この第二波で港は壊滅です。

忘れ去られた被災地ということで暫くしてから私のところへマスコミが10社ほどきまして、特集も組んでいただきました。大洗町は茨城の観光地ですので、当初から被害状況が詳細に報道されていました。でも、その次は福島県の被害映像であり、茨城県最北端の北茨城市にも大津や平潟といった港があるのですが、それらの地域は被災直後ほとんど報道されませんでした。被災地なのに来てくれなかった。

被災から1カ月ほど経った時、あるテレビ局が取材させてくれということで、報道していただけるならと私たちもできる限り協力させていただきました。すると全国から大きな反響がありまして、天皇皇后両陛下までが漁港へ視察にいらっしゃって下さり、私達被災者と握手までしていただき、又、組合員で行方不明者がいることを話すと海に向かって一礼し、手を合わせて頂きました。

